



## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	グランファールレ平岸THEパークサイド(東棟)	階数	地上11F
建設地	札幌市豊平区平岸2条12丁目70番の内	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	165 人
気候区分	2地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年11月 予定	評価の実施日	2017年6月30日
敷地面積	1,517 m <sup>2</sup>	作成者	佐々木 裕一
建築面積	414 m <sup>2</sup>	確認日	2017年6月30日
延床面積	3,561 m <sup>2</sup>	確認者	佐々木 裕一



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 67%

③上記+②以外の 67%

④上記+ 67%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

### 3 設計上の配慮事項

<p><b>総合</b></p> <p>北側の公園に配慮し、建物を南側に配置した。エントランスアプローチもできる限り長めにとり、威圧感の少ない構えとしました。道路面に植栽を配置して親密感を高めました。</p>	<p><b>A 省エネルギー</b></p> <p>窓・外壁部分に断熱性能の高い部材を採用している。熱交換型ロスナイ換気扇を採用し、熱のロスを抑えている。潜熱回収型の給湯器を採用している。</p>	<p><b>B 省資源等</b></p> <p>分別保管の可能なシャッター付24時間ゴミ保管庫を同一敷地内に設置(団地共用)している。節湯・節水型の水栓を採用している。</p>
<p><b>C 緑化</b></p> <p>緑化基準以上の緑化率とし、道路に沿って緑化を配置した計画としている。</p>	<p><b>D 雪処理</b></p> <p>ロードヒーティングを敷地全体に敷設し、敷地外には雪を出さない様に配慮している。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE Sapporo2014v1.2  
 グランファール平岸THEパークサイド(東棟)

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		A	B	C	D			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>												
<b>Q1 室内環境</b>												
1 音環境												
1.1 騒音												
1.2 遮音												
1.3 吸音												
2 温熱環境												
2.1 室温制御												
2.2 湿度制御												
2.3 空調方式												
3 光・視環境												
3.1 昼光利用												
3.2 グレア対策												
3.3 照度												
3.4 照明制御												
4 空気環境												
4.1 発生源対策												
4.2 換気												
4.3 運用管理												
<b>Q2 サービス性能</b>												
1 機能性												
1.1 機能性・使いやすさ												
1.2 心理性・快適性												
1.3 維持管理												
2 耐用性・信頼性												
2.1 耐震・免震												
2.2 部品・部材の耐用年数												
2.4 信頼性												
3 対応性・更新性												
3.1 空間のゆとり												
3.2 荷重のゆとり												
3.3 設備の更新性												

CASBEE Sapporo2014v1.2  
 グランファール平岸THEパークサイド(東棟)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		A	B	C	D		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>											
1 生物環境の保全と創出											
2 まちなみ・景観への配慮											
3 地域性・アメニティへの配慮											
3.1 地域性への配慮、快適性の向上											
3.2 敷地内温熱環境の向上											
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>											
<b>LR1 エネルギー</b>											
1 建物外皮の熱負荷抑制											
2 自然エネルギー利用											
3 設備システムの高効率化											
BEI 非住宅 — 住宅(専有部) 0.89											
4 効率的運用											
LR2 資源・マテリアル											
1 水資源保護											
1.1 節水											
1.2 雨水利用・雑排水等の利用											
2 非再生性資源の使用量削減											
3 汚染物質含有材料の使用回避											
<b>LR3 敷地外環境</b>											
1 地球温暖化への配慮											
2 地域環境への配慮											
3 周辺環境への配慮											

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE 札幌



## 重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

1 建物概要		BEE	1.7	BEEランク	A
建物名称	グランファール平岸THEパークサイド(東棟)	総合評価 ★★★★★☆			
建物用途	集合住宅				
延床面積	3,560.56 m <sup>2</sup>				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>この建物は特に <b>省エネルギー性能</b> が優れています</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★★★	
	雪処理	★★★☆☆	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア					
<b>A 省エネルギー</b>				合計	22点 / 24点
Q1 温熱環境	スコア	4.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	2.0
Q1 光・視環境	スコア	3.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.0
<b>B 省資源等</b>				合計	14点 / 23点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	1.0	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0
<b>C 緑化</b>				合計	11点 / 16点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	3.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0			
<b>D 雪処理</b>				合計	1点 / 3点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0

4 設計上の配慮事項		
<b>A 省エネルギー</b> 窓・外壁部分に断熱性能の高い部材を採用している。熱交換型ロスナイ換気扇を採用し、熱のロスを抑えている。潜熱回収型の給湯器を採用している。		
<b>B 省資源等</b> 分別保管の可能なシャッター付24時間ゴミ保管庫を同一敷地内に設置(団地共用)している。節湯・節水型の水栓を採用している。	<b>C 緑化</b> 緑化基準以上の緑化率とし、道路に沿って緑化を配置した計画としている。	<b>D 雪処理</b> ロードヒーティングを敷地全体に敷設し、敷地外には雪を出さない様に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される